

コードリールの500V絶縁抵抗計による計測方法

1.アースと充電部(電源線)

ブレーカーを「ON」で計測して5MΩ以上で合格。(通常コードリールの実測値は100MΩ以上になります)

■測定方法



アースピンは右に回して
ロックしてください

コードリールプラグのアースと電源刃部に片方ずつあててそれぞれ測定します。電気用品安全法→電気用品の技術基準を定める省令→別表第四→配線器具→6接続器→附表第四に基づいて数値は、**5MΩ以上**と定められています。

(カンデンレスリールはアース監視機能がついているため**1MΩ以上**です) 金属製のドラムの場合は金属部にはアースが取れていますのでアースピンの代わりに本体の塗装のない箇所にクリップを挟んでも良いです。また両極間(電源線)の絶縁性能についてはコードリール内部にパイロットランプを

内蔵していますので分解して取り外さないと測定できません。

漏電に対しての通常の点検では「1.アースと充電部」のみの測定で良いです。

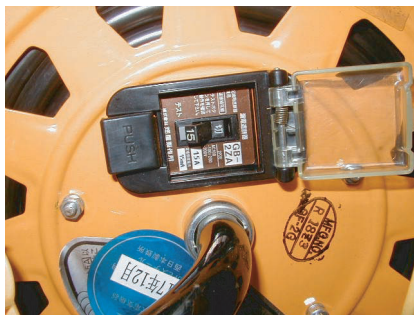
但しブレーカー付のコードリールに対しては電線のみ以下の方法で測定することができます。

2.充電部(電源線)のみ、両極間(ブレーカー付のみ測定できます。※カンデンレスリールは除く)

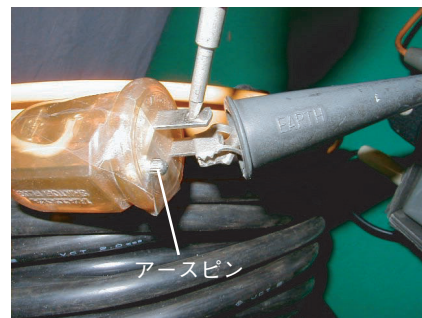
コードリールには、ブレーカーやパイロットランプなど導通部品が接続されていますので、**500V絶縁抵抗計接続すると破損することがあります。**

電線のみ絶縁抵抗値でしたら以下の方法で計測できます。

- ①ブレーカーを「切」にします。 ②アースピンをテープなどで押し込み固定します。



これは、ブレー
カーや電源ラン
プに導通させな
いためです。



アースピン

- ③500V絶縁抵抗計にて計測します。



5MΩ以上で合格(この写真では100MΩ以上です)

※この方法でもカンデンレスリールはアース監視回路がブレーカーの1次側に取付してあるため電線のための両極間絶縁抵抗値は計測できません。(約0.2MΩになります) 分解し線を切断しなければなりません。

プラグのアースピンを出したまま
500V絶縁抵抗計にて計測すると
パイロットランプに500Vがかかり
導通してしまい針が振れます。
針が振れる(約0.2MΩ)



パイロットランプが点灯

アースピンが出ている

※写真の500V絶縁抵抗計はYOKOGAWA TYPE3213を使用しています。